

表 3-8-1

		合計	親 戚 を 説 得 す る	結 婚 得 は せ ず	わ か ら な い	結 婚 を 諦 め る	統 計 的 検 定
2.1 外国籍・他民族の人	自営業	69	53.6%	24.6%	20.3%	1.4%	p<.001 ***
	自由業	14	35.7%	28.6%	35.7%	0.0%	
	公務員・教員	61	68.9%	19.7%	9.8%	1.6%	
	経営者・役員	34	55.9%	32.4%	8.8%	2.9%	
	正規職員	322	62.4%	19.9%	14.0%	3.7%	
	非正規職員	284	52.8%	23.9%	19.4%	3.9%	
	学生	167	68.3%	19.2%	12.6%	0.0%	
	無職	418	49.3%	21.1%	22.5%	7.2%	
	合計	1369	56.5%	21.6%	17.8%	4.1%	
2.2 本人または家族に障害のある人	自営業	70	50.0%	24.3%	24.3%	1.4%	p=.033 *
	自由業	14	35.7%	21.4%	35.7%	7.1%	
	公務員・教員	61	60.7%	18.0%	14.8%	6.6%	
	経営者・役員	34	50.0%	29.4%	17.6%	2.9%	
	正規職員	323	57.6%	17.0%	21.7%	3.7%	
	非正規職員	284	48.9%	21.1%	23.9%	6.0%	
	学生	167	57.5%	16.2%	20.4%	6.0%	
	無職	418	43.3%	19.4%	29.9%	7.4%	
	合計	1371	50.8%	19.3%	24.4%	5.6%	
2.3 被差別部落出身の人	自営業	70	41.4%	28.6%	25.7%	4.3%	p<.001 ***
	自由業	14	21.4%	35.7%	28.6%	14.3%	
	公務員・教員	61	62.3%	18.0%	14.8%	4.9%	
	経営者・役員	34	38.2%	38.2%	20.6%	2.9%	
	正規職員	323	44.9%	18.6%	26.3%	10.2%	
	非正規職員	284	38.4%	20.4%	29.9%	11.3%	
	学生	166	60.8%	18.7%	16.3%	4.2%	
	無職	418	38.3%	21.1%	31.8%	8.9%	
	合計	1370	43.6%	20.9%	26.9%	8.6%	
2.4 刑を終えて出所した人または その家族	自営業	70	25.7%	14.3%	54.3%	5.7%	p<.001 ***
	自由業	14	21.4%	21.4%	35.7%	21.4%	
	公務員・教員	61	34.4%	9.8%	44.3%	11.5%	
	経営者・役員	34	23.5%	20.6%	38.2%	17.6%	
	正規職員	323	30.3%	13.6%	37.5%	18.6%	
	非正規職員	284	21.1%	14.1%	40.1%	24.6%	
	学生	166	38.6%	12.7%	29.5%	19.3%	
	無職	415	18.6%	11.1%	48.7%	21.7%	
	合計	1367	25.5%	12.9%	41.6%	19.9%	

表 3-8-2

F3 職業	2.1 自分の相手・ 外国籍・他民族の 人	2.2 自分の相手・ 本人または家族に 障害のある人	2.3 自分の相手・ 被差別部落出身の 人	2.4 自分の相手・ 刑を終えて出所し た人またはその家 族
自営業	3.3	3.2	3.1	2.6
自由業	3.0	2.9	2.6	2.4
公務員・教員	3.6	3.3	3.4	2.7
経営者・役員	3.4	3.3	3.1	2.5
正規職員	3.4	3.3	3.0	2.6
非正規職員	3.3	3.1	2.9	2.3
学生	3.6	3.3	3.4	2.7
無職	3.1	3.0	2.9	2.3
合計	3.3	3.2	3.0	2.4

表 3-8-1 と表 3-8-2 より、すべての項目において、公務員・教員、および、学生において、結婚相手の条件について人権意識が高い傾向が見られます。他方、自由業については、自分の結婚相手についての考え方において人権意識が低い傾向が見られます。次いで、無職の人びとにおいて人権意識が低い傾向がうかがえます。

職種と自分の結婚相手の条件との関連では、公務員・教員、および、学生において、結婚相手の条件について人権意識の高い傾向にあると解釈されます。

地域との関連も検討しましたが、いずれの項目においても地域差は見られませんでした。分析結果は省略します。

**問4 あなたは、過去に自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか  
(どれかに○)**

表 4-1 のとおり、過去に人権を侵害された経験のある人は 18.0%という数値になっています。「人権を侵害された経験」率を「人権侵害被害率」と呼ぶことにします。

表 4-1

4 過去に自分の人権が侵害されたと感じたこと				
合計	ある	ない	わからない	無回答
1420	256	737	331	96
100.0%	18.0%	51.9%	23.3%	6.8%

ここからは、性別、年齢別、職種別、地区別の人権侵害の比率を検討します。選択肢を順序尺度にするために、「ある」、「わからない」、「ない」という順序に変換します。

また、 $\chi^2$  検定を行うために、「無回答」を分析から省くこととお断りしておきます。

表 4-2 は分析結果です。

表 4-2 によると、性別との間に統計的に有意な関連が認められ、性別未選択者では人権侵害被害率がとりわけ高く、次いで、女性の被害率が高いことがわかります。

年齢においても被害率に有意な差が認められ、20 歳代から 50 歳代は、それ以外の年代よりも高い傾向が見られます。

職種においても、人権侵害被害率に有意な差が認められ、とりわけ、自由業の人権侵害被害率が高いことがわかります。

地区の違いによる人権侵害被害率では有意な差が見られません。ただ、藍地区、カルチャータウン地区では人権侵害被害率が 30%を超えています。

表 4-2

		4 過去に自分の人権が侵害されたと感じたこと				
		合計	ある	わからない	ない	
F1 性別	男性	593	14.3%	23.6%	62.1%	p<.001 ***
	女性	709	22.8%	26.2%	50.9%	
	性別未選択者	11	45.5%	36.4%	18.2%	
	合計	1313	19.2%	25.1%	55.7%	
F2 年齢	10歳代	124	12.1%	21.0%	66.9%	p<.001 ***
	20歳代	165	23.0%	24.2%	52.7%	
	30歳代	170	24.1%	32.9%	42.9%	
	40歳代	183	23.5%	28.4%	48.1%	
	50歳代	202	24.3%	26.2%	49.5%	
	60歳代	249	17.7%	23.3%	59.0%	
	70歳代以上	214	9.8%	20.6%	69.6%	
	合計	1307	19.2%	25.2%	55.6%	
F3 職業	自営業	68	16.2%	26.5%	57.4%	p<.001 ***
	自由業	13	53.8%	23.1%	23.1%	
	公務員・教員	58	27.6%	25.9%	46.6%	
	経営者・役員	32	15.6%	28.1%	56.3%	
	正規職員	297	19.2%	23.2%	57.6%	
	非正規職員	267	25.1%	28.5%	46.4%	
	学生	160	10.6%	23.1%	66.3%	
	無職	397	15.9%	24.7%	59.4%	
	合計	1292	18.8%	25.2%	56.0%	
F4地区	三田地区	145	16.6%	26.9%	56.6%	p=.547
	三輪地区	172	15.1%	25.6%	59.3%	
	広野地区	55	29.1%	25.5%	45.5%	
	小野地区	27	22.2%	25.9%	51.9%	
	高平地区	33	18.2%	18.2%	63.6%	
	藍地区	25	32.0%	28.0%	40.0%	
	本庄地区	21	19.0%	33.3%	47.6%	
	フラワータウン地区	252	17.5%	28.2%	54.4%	
	ウッディタウン地区	414	19.1%	23.9%	57.0%	
	カルチャータウン地区	45	31.1%	22.2%	46.7%	
	つつじが丘地区	85	18.8%	21.2%	60.0%	
	合計	合計	1274	19.1%	25.3%	

問4-1 「ある」と答えた方にお聞きします。それはいつ頃起きた人権侵害でしたか。

人権を侵害された経験のある256人について、具体的な人権侵害にあたる事象を、「1～4年前」、「5～9年前」、「10年以上前」に分けて回答を求めました。

256人中

表4-3

人権侵害にあたる事象	1～4	5～9	10年
	年前	年前	以上前
A ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者やパートナーからの暴力・暴言など）	7.4%	5.9%	9.4%
B セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	4.7%	3.1%	9.4%
C 性差による不当な扱いや言動	4.7%	2.7%	9.8%
D 親からの虐待（体罰、暴言、育児放棄、性的虐待など）	0.4%	1.2%	13.7%
E 学校でのいじめ	0.8%	7.0%	40.6%
F 先生からの体罰・暴言など	1.6%	1.6%	21.5%
G 心身の障害に係わる不当な扱いや言動	3.9%	5.9%	5.9%
H 出生地や住所地に係わる不当な扱いや言動	1.2%	0.8%	5.1%
I 部落差別に関する不当な扱いや言動	0.8%	0.0%	3.5%
J 外国籍に係わる不当な扱いや言動	0.4%	0.0%	2.0%
K 性の多様性に関する不当な扱いや言動	0.4%	0.4%	1.2%
L 地域での仲間はずれ	0.4%	0.8%	5.5%
M 職場でのいじめ、暴力、パワーハラスメントなど	12.5%	11.3%	15.6%
N あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害	8.2%	8.2%	9.8%
O ラインやツイッターなどのインターネットによる人権侵害	5.1%	2.3%	0.8%
P 性犯罪	1.2%	0.4%	2.3%
Q その他〔具体的に〕	1.2%	1.6%	4.7%

表 4-3 によると、「1~4 年前」の経験では、「M 職場でのいじめ、暴力、パワーハラスメントなど」12.5%、「N あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」8.2%が目立っています。

「5~9 年前」でも、「M 職場でのいじめ、暴力、パワーハラスメントなど」11.3%、「N あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」8.2%が高く、次いで、「A ドメスティック・バイオレンス」5.9%、「G 心身の障害に係わる不当な扱いや言動」5.9%が続きます。

また、「10 年以上前」では、「E 学校でのいじめ」40.6%、「F 先生からの体罰・暴言など」21.5%、「D 親からの虐待」13.7%と、いずれも子ども時代のつらい体験の比率が高くなっています。「M 職場でのいじめ、暴力、パワーハラスメントなど」15.6%、「N あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」9.8%、「C 性差による不当な扱いや言動」9.8%と高く、さらに、「A ドメスティック・バイオレンス」9.4%、「B セクシュアル・ハラスメント」9.4%も高いことがわかります。「O ラインやツイッターなどのインターネットによる人権侵害」は、「10 年以上前」では被害は少なく、近年になるほど被害率が増加しています。

この 10 年くらいの間で SNS 環境が飛躍的に変化する中で、関連する人権侵害も増加してきたと解されます。

なお、表 4-3 の解釈の仕方について、1 点、お断りしておきます。

すなわち、人権侵害の中には、だれもが被害対象になりうる事象（たとえば、学校でのいじめや体罰など）と、何らかの属性（たとえば、外国籍や性マイノリティなど）によって人権侵害の被害対象となりうる事象があって、回答者のなかで何らかの属性を有する人の比率が少ない場合には、表 4-3 の人権侵害被害率は小さい値となるものと推測されます。このことから、表 4-3 の人権侵害被害率の高低が、そのまま、人権侵害の深刻さや人権侵害の広がりという意味するものではないということです。厳密を期すには、回答者の中で、何らかの属性を有する人びとの中の人権侵害被害率を算出する必要があります。とはいえ、今回の調査では、上記の人権侵害の事象に関連のある属性を問うていないことから、厳密な意味での人権侵害被害率を求めることはできません。

表 4-4 は、性別による被った人権侵害の種類や受けた時期の違いをみたものです。表 4-4 では統計的検定は行っていません。その理由の 1 つは、性別未選択者が 5 人と少数であり、統計的検定を行うには、無回答と性別未選択者を分析から省く必要がありますが、そうすると、性別未選択者が被ってきた人権侵害の実態を捉えることができないことから、統計的検定よりも性別未選択者の実態を把握することを優先したからです。

ここでは、表 4-4 から、特徴的な数値に着目することにします。

「A ドメスティック・バイオレンス (DV:配偶者やパートナーからの暴力・暴言など)」は、女性において「1~4年前」、「5~9年前」、「10年以上前」のいずれの時期でも10%前後と変わらず、男性よりも比率が高くなっています。

「B セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)」、「C 性差による不当な扱いや言動」は、男性よりも女性において比率が高い傾向にあり、とりわけ、「10年以上前」では、「B セクシュアル・ハラスメント」14.2%、「C 性差による不当な扱いや言動」15.4%と高くなっています。

「M 職場でのいじめ、暴力、パワーハラスメントなど」、「N あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」は、必ずしも性差は見られず、しかも、「1~4年前」、「5~9年前」、「10年以上前」のいずれの時期においても比較的高い比率となっています。

「D 親からの虐待 (体罰、暴言、育児放棄、性的虐待など)」は、「10年以上前」において、性別未選択者 20.0%、女性 16.7%、男性 8.2%と高くなっています。

「E 学校でのいじめ」は、「10年以上前」において、男性 38.8%、女性 42.0%、性別未選択者 40.0%と、性差に関わりなく高いことがわかります。

「F 先生からの体罰・暴言など」も、「10年以上前」において、男性 21.2%、女性 22.2%、性別未選択者 20.0%と、性差に関わりなく高いと言えます。

性別未選択者は、男性、女性以上に、「K 性の多様性に関する不当な扱いや言動」、「P 性犯罪」の被害を受けてきたことがわかります。

表 4-4

			1~4年前			5~9年前			10年以上前		
			あてはま る	あてはま らない	無回答	あてはま る	あてはま らない	無回答	あてはま る	あてはま らない	無回答
Aドメスティック・ バイオレンス	男性	85	2.4%	96.5%	1.2%	1.2%	97.6%	1.2%	3.5%	95.3%	1.2%
	女性	162	10.5%	88.9%	0.6%	8.6%	90.7%	0.6%	11.7%	87.7%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	合計	252	7.5%	91.7%	0.8%	6.0%	93.3%	0.8%	9.1%	90.1%	0.8%
Bセクシュアル・ ハラスメント	男性	85	1.2%	97.6%	1.2%	0.0%	98.8%	1.2%	1.2%	97.6%	1.2%
	女性	162	6.8%	92.6%	0.6%	4.9%	94.4%	0.6%	14.2%	85.2%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	4.8%	94.4%	0.8%	3.2%	96.0%	0.8%	9.5%	89.7%	0.8%
C性差による不当 な扱いや言動	男性	85	2.4%	96.5%	1.2%	0.0%	98.8%	1.2%	0.0%	98.8%	1.2%
	女性	162	6.2%	93.2%	0.6%	4.3%	95.1%	0.6%	15.4%	84.0%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	4.8%	94.4%	0.8%	2.8%	96.4%	0.8%	9.9%	89.3%	0.8%
D親からの虐待	男性	85	0.0%	98.8%	1.2%	2.4%	96.5%	1.2%	8.2%	90.6%	1.2%
	女性	162	0.6%	98.8%	0.6%	0.6%	98.8%	0.6%	16.7%	82.7%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	合計	252	0.4%	98.8%	0.8%	1.2%	98.0%	0.8%	13.9%	85.3%	0.8%
E学校でのいじめ	男性	85	0.0%	98.8%	1.2%	9.4%	89.4%	1.2%	38.8%	60.0%	1.2%
	女性	162	1.2%	98.1%	0.6%	6.2%	93.2%	0.6%	42.0%	57.4%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%
	合計	252	0.8%	98.4%	0.8%	7.1%	92.1%	0.8%	40.9%	58.3%	0.8%
F先生からの体罰・ 暴言など	男性	85	0.0%	98.8%	1.2%	4.7%	94.1%	1.2%	21.2%	77.6%	1.2%
	女性	162	2.5%	96.9%	0.6%	0.0%	99.4%	0.6%	22.2%	77.2%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	合計	252	1.6%	97.6%	0.8%	1.6%	97.6%	0.8%	21.8%	77.4%	0.8%
G心身の障害に 係わる不当な扱い や言動	男性	85	4.7%	94.1%	1.2%	9.4%	89.4%	1.2%	7.1%	91.8%	1.2%
	女性	162	3.7%	95.7%	0.6%	4.3%	95.1%	0.6%	5.6%	93.8%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	4.0%	95.2%	0.8%	6.0%	93.3%	0.8%	6.0%	93.3%	0.8%
H出生地や住所地 に係わる不当な 扱いや言動	男性	85	0.0%	98.8%	1.2%	2.4%	96.5%	1.2%	7.1%	91.8%	1.2%
	女性	162	1.9%	97.5%	0.6%	0.0%	99.4%	0.6%	4.3%	95.1%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	1.2%	98.0%	0.8%	0.8%	98.4%	0.8%	5.2%	94.0%	0.8%
I部落差別に関する 不当な扱いや言動	男性	85	1.2%	97.6%	1.2%		98.8%	1.2%	8.2%	90.6%	1.2%
	女性	162	0.6%	98.8%	0.6%		99.4%	0.6%	1.2%	98.1%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	0.8%	98.4%	0.8%		99.2%	0.8%	3.6%	95.6%	0.8%



## つづき

		1～4年前			5～9年前			10年以上前			
		あてはま る	あてはま らない	無回答	あてはま る	あてはま らない	無回答	あてはま る	あてはま らない	無回答	
J外国籍に係わる 不当な扱いや言動	男性	85	0.0%	98.8%	1.2%		98.8%	1.2%	2.4%	96.5%	1.2%
	女性	162	0.6%	98.8%	0.6%		99.4%	0.6%	1.9%	97.5%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	0.4%	98.8%	0.8%		99.2%	0.8%	2.0%	97.2%	0.8%
K性の多様性に 関する不当な扱い や言動	男性	85	0.0%	98.8%	1.2%	0.0%	98.8%	1.2%	0.0%	98.8%	1.2%
	女性	162	0.0%	99.4%	0.6%	0.0%	99.4%	0.6%	1.2%	98.1%	0.6%
	性別未選択者	5	20.0%	80.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	合計	252	0.4%	98.8%	0.8%	0.4%	98.8%	0.8%	1.2%	98.0%	0.8%
L地域での仲間 はずれ	男性	85	0.0%	98.8%	1.2%	1.2%	97.6%	1.2%	5.9%	92.9%	1.2%
	女性	162	0.6%	98.8%	0.6%	0.6%	98.8%	0.6%	4.9%	94.4%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	0.4%	98.8%	0.8%	0.8%	98.4%	0.8%	5.2%	94.0%	0.8%
M職場でのいじめ、 暴力、パワーハラ メントなど	男性	85	7.1%	91.8%	1.2%	10.6%	88.2%	1.2%	16.5%	82.4%	1.2%
	女性	162	16.0%	83.3%	0.6%	11.1%	88.3%	0.6%	15.4%	84.0%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	合計	252	12.7%	86.5%	0.8%	10.7%	88.5%	0.8%	15.9%	83.3%	0.8%
Nあらぬうわさや 悪口による、名誉 ・信用などの侵害	男性	85	8.2%	90.6%	1.2%	4.7%	94.1%	1.2%	7.1%	91.8%	1.2%
	女性	162	8.6%	90.7%	0.6%	9.9%	89.5%	0.6%	11.7%	87.7%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	8.3%	90.9%	0.8%	8.3%	90.9%	0.8%	9.9%	89.3%	0.8%
Oラインやツイッタ ーなどのインター ネットによる人権 侵害	男性	85	3.5%	95.3%	1.2%	0.0%	98.8%	1.2%	1.2%	97.6%	1.2%
	女性	162	6.2%	93.2%	0.6%	3.7%	95.7%	0.6%	0.6%	98.8%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	5.2%	94.0%	0.8%	2.4%	96.8%	0.8%	0.8%	98.4%	0.8%
P性犯罪	男性	85	0.0%	98.8%	1.2%	0.0%	98.8%	1.2%	0.0%	98.8%	1.2%
	女性	162	1.2%	98.1%	0.6%	0.6%	98.8%	0.6%	3.7%	95.7%	0.6%
	性別未選択者	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	1.2%	98.0%	0.8%	0.4%	98.8%	0.8%	2.4%	96.8%	0.8%
Qその他	男性	85	1.2%	97.6%	1.2%	1.2%	97.6%	1.2%	2.4%	96.5%	1.2%
	女性	162	0.6%	98.8%	0.6%	1.9%	97.5%	0.6%	6.2%	93.2%	0.6%
	性別未選択者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	合計	252	0.8%	98.4%	0.8%	1.6%	97.6%	0.8%	4.8%	94.4%	0.8%

年齢と人権侵害との関連については、統計的な関連が見られた項目についてのみ、表を掲載し、解説します。

まず、表 4-5-1 の「B セクシュアル・ハラスメント」については、「1～4 年前」において、年齢と関連が見られ、20 歳代では 15.8%と顕著に高くなっています。

表 4-5-2 の「E 学校でのいじめ」では、「5～9 年前」、「10 年以上前」において、年代と関連が見られ、回答者が、小学生、中学生の頃に学校でのいじめを経験したものと推察され、しかも、30 歳代、40 歳代の人権侵害の経験者の中で 10 年以上前に学校でのいじめの経験者が 6 割近くにも及んでいます。

表 4-5-3 の「F 先生からの体罰・暴言など」では、10 歳代で人権侵害を経験した人びとのうち、「5 年～9 年前」が 14.3%と高く、小学校か中学校での被害と推察されます。

表 4-5-4 の「M 職場でのいじめ、暴力、パワーハラスメントなど」では、年齢の上の人ほど、「5～9 年前」、「10 年以上前」の比率が高くなっています。現在、20 代の方は、1～4 年前に 21.1%と高いので 20 代の今、経験をしている。現在 30 代の方は 1～4 年前に 19.5%、10 年以上前に 22.0%と高いので、20～30 代の間に経験していることとなります。一方、現在 50 代の方は 5～9 年前に 26.5%と高く、40 代の頃に経験した人が多くなっています。現在、60 代の方は 10 年以上前に 25.0%と高く、50 代までに経験した人が多くなっています。これから以前は 40～50 代で最近は 20～30 代で経験している傾向にあります。

表 4-5-5 の「O ラインやツイッターなどのインターネットによる人権侵害」は、「10 年以上前」では被害は少なく、近年になるほど、10 歳代、20 歳代の若い世代で被害経験が多いことがわかります。